

希望
先進校枠

令和 2 年度ひょうごスーパーハイスクール構想調書

指定年度	①学校名					兵庫県立北摂三田高等学校				
令和 2										
②対象学 科名	③対象とする生徒数					④国や県の指定状況				
普通科	1 年	2 年	3 年	4 年	計					
	240	225	216		681					
人間科学類型 (内数)	(40)	(39)	(18)		(97)					
⑤研究開 発構想名	世界へ発信する魅力溢れる society5.0 の象徴「三田」 ～循環型社会の実現と先進技術の活用による新たな価値創出に向けて躍動する国際都市「三田」～									
⑥研究開 発の概要	2008 年を境に人口減少局面に入った三田市では、いずれの地域も児童数の減少や高齢化、さら に若い世代の定住志向の低下等の課題に直面している。一方で、都市基盤が整備された街並み と里山が共存する住みよい街として高い評価を受け、国内シェア上位を占める企業が集積する 大規模な工業団地も存在する。本研究では、市民と地域の産業及び自然との共存並びに、持続 可能な循環型社会の実現と先進技術の活用による新たな価値創出に向けて躍動する国際都市 の発展と新たな創造を、郊外型・農村型地方都市「三田」からモデルプランを提案し発信する ことを目指す。これは、積極的な循環型社会への転換モデルであることは言うまでもなく、政 府の提示する第 5 期科学技術基本計画で謳われる社会的価値や様々なサービスを次々と生み出 す society5.0 を目指し、国際的視野に立って提案し発信するものである。									
⑦研究開 発の 内容等	1 全 体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>〈目的〉地域を大切にし、自らを大切にし、世界に通じるグローバルな考え方と解決能力を持 ち、将来国際社会で活躍できるグローバルリーダーを育成する。</p> <p>〈目標〉地域における具体的課題を見つけ、その解決のための方策を様々な観点から見出し、 さらに同様の課題を有する地域及び日本全国に提案し、それを国際社会への提案に繋げる。</p> <p>〈指導の方針〉 本事業では AI 等の先端技術に柔軟に対応するだけでなく、その積極的な活用 や開発に携わる意志を持ち、人と人との繋がりを礎に倫理観と創造性に満ちた姿勢で自ら の責務を完全に遂行する人材を育成する。卒業する生徒全員が生涯を通して常にアクティ ブ・ラーナー（能動的学び手）の姿勢をもち世界的視野を持って活躍する人材を輩出する高 等学校として、地域とともに歩みそして学びの形態をリードする取組を実現する。</p> <p>(2) 現状の分析（これまでの取組）</p> <p>①海外の学校等との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹校 St. Columba' s Catholic College（豪・New South Wales 州）と 20 年以上交流 長期留学生（1 年間）の交換・短期海外研修（夏季休業・隔年）の実施 ※ 新型コロナウイルス拡大に伴い、R 2 年度は中止の予定</li> <li>→代替の取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア架け橋プロジェクト留学生との合同調査および研究（次年度は学校間へと発展） 本校が過去に受け入れた留学生（H30 ブータン Changangkha Middle Secondary School・R1 トルコ Lycee Saint Benoit）と合同調査を実施し、ビデオ通話システム を用いたディスカッションを行う</li> <li>・豪姉妹校の生徒と、ワークライフバランスに係る合同調査及びそのことに係るビデオ通話 システムを用いた英語でのプレゼンテーションとディスカッション</li> <li>・豪州企業訪問（民間 BOXING・障害者施設 Dare Disability Support）でワークライフバラ ンスに係る実地調査 ※ 新型コロナウイルス拡大に伴い、R 2 年度は中止の予定</li> <li>→代替の取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・三田市の類似施設（トレーニングジム・障害者福祉施設）で同様のワークライフバラ ンスに関する実地調査を実施し、オーストラリアと日本との比較研究を行う。その研究結</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>								

果をもとに、ビデオ通話システムを用いて豪州企業にプレゼンテーションとディスカッションを行う

- ・外務省 GNESYS 訪問団の受け入れ
- ・兵庫県国際交流協会による台湾教員視察団の受け入れ
- ・JICA 研修員との交流
- ・アジア高校生架け橋プロジェクトによる留学生（ブータン・トルコ）の受け入れ

②課題研究の取組

- ・ディベート及び小論文作成による思考プロセスの定着
- ・科学実験実習とプレゼンテーション体験 <京都大学>
- ・プレゼンテーション研修・社会調査統計演習 <大阪大学>
- ・課題研究個別指導 <大阪大学・関西学院大学 等>
- ・多文化共生研修 <国立民族学博物館>
- ・人間科学類型課題研究発表会 <人と自然の博物館>
- ・校外での発表

SGH 全国高校生フォーラム・日本天文学会ジュニアセッション（R1年度コロナウイルス拡大のため中止）・三田まちづくりコンテスト等の発表会

③グローバル人材育成に向けた取組

- ・一日大学体験講座 <京都大学など7大学>
- ・インスパイア講演会 <理化学研究所、神戸大学、国立極地研究所>
- ・人間科学類型特別授業 <大阪大学など5大学、1研究所、2民間企業、1外部団体>
- ・キャリア研修 <7大学、8民間企業、2研究所、1医療機関、2官公庁、3外部団体>
- ・イングリッシュカフェの実施（ALTを囲んだ懇話会）

④地域との連携及び地域への成果発信

- ・ハイマートフェストで文化部発表及び学びの成果発表（外部施設での地域向発表会）
- ・三田市行政施設や特別養護老人ホーム、地域イベント等における交流及び成果発表
- ・三田市小学校・中学校と連携した授業方法開発研究及び講師としての教員派遣
- ・三田市小学校でのスタディボランティア

⑤グローバルサイエンスキャンパス（大阪大学 SEEDS、神戸大学 ROOT）への参加

(3) 新たな取組内容 <連携先等>

- ①情報収集及び活用力、課題発見力、論理的思考力、批判的思考力、連携及び協働力、表現力及び発信力を培うために1年生全員にディベートを指導し「探究的な学び」の基礎とする。 <連携先 関西学院大学等>
- ②総合的な探究の時間及び学校設定教科「人間科学Ⅰ・Ⅱ」の時間を中心に行う課題研究において、継続的に大学教員の指導を受ける。 <大阪大学・関西学院大学 等>
- ③すべての教科において生徒の読解力など基盤的な学力を確実に定着させながら、生徒個人の習熟度や能力及び関心等のスタディ・ログとして電子化し蓄積して活用する学びのポートフォリオの利用研究を進める。 <連携先 関西学院大学・ベネッセ・リクルート>
- ④テレビ会議システムにタブレットを導入し、英語による課題研究発表やディスカッション等を行いながらより円滑に海外の高等学校等との交流を図る。 <連携先 豪姉妹校 等>
- ⑤留学生の受け入れをさらに積極的に進め、情報交換や意見交換を行い、国際的な視野で行う論理的思考力を高める。 <連携先 国際交流協会、AFS日本協会>

(4) 成果の普及

- ①豪姉妹校とのテレビ会議システムによる英語プレゼンや海外研修を海外へ発信
- ②各種の課題研究発表会やハイマートフェスト（三田市市民センター及び博物館展示室・文化ホール）で地域向けに発表・提案
- ③三田市高校生議会における提案及び行政各関係課に提言
- ④小学校・中学校の児童生徒にもその内容に工夫を加えながら成果を披露する。
- ⑤課題研究の成果をまとめた論文集の編集及び各学校や自治体への配布とHPアップ

2 課 題 研 究	<p>(1) 課題研究内容 『先端技術を視野に入れ、持続可能な循環型社会に向けて都市再生を図る』 〈課題研究テーマ 例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○フードロス減の推進に向けて、市民の意識調査や企業の実態調査を実施</li> <li>○「やさしい日本語」を用いた在日外国人向けのハザードマップの作製</li> </ul> <p>(2) 実施方法・検証評価 〈連携先等〉</p> <p>①実施方法1 〈教育課程上に位置づけるもの〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間・学校設定教科「人間科学Ⅰ・Ⅱ」 〈連携先 大阪大学・関西学院大学〉</li> <li>・特別活動等 課題研究指導 〈連携先 京都大学・大阪大学〉</li> </ul> <p>②実施方法2 〈教育課程上に位置づけないもの〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワーク</li> <li>・地域行政からの指導及び連携</li> <li>・地域の幼稚園児から中学校生徒までを対象とした連携実習</li> <li>・三田市での聞き取り調査 〈三田市役所・三菱電機等〉</li> <li>・在日外国人への聞き取り調査 〈三田市国際交流協会等〉</li> <li>・海外（豪州・米国）での調査</li> <li>・テレビ会議システムを利用したディスカッション 〈姉妹校等〉</li> </ul> <p>③検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内発表による生徒相互評価（同一学年を越えて）及び教員評価</li> <li>・学校評議員及び大学教員による評価</li> <li>・テレビ会議システムによる豪州企業などへの英語プレゼンテーション評価</li> <li>・三田市高校生議会において議事として提案</li> <li>・三田市民センター等での発表に対する聴衆からの評価・意見</li> <li>・様々な校外発表会での評価</li> <li>・JICA 研修員など訪日外国人への英語プレゼンテーション評価</li> <li>・国際交流協会等を通じた、訪日外国人との英語による協議やプレゼンテーション</li> </ul> <p>(3) 研究体制（外部連携及び校内体制）</p> <p>①校内体勢 HGLC 推進部が、教育課程委員会、人間科学類型委員会、国際理解教育推進委員会、学年担当者等との連携を図り、大学教員等からなる運営指導委員からの指導・助言を得ながら指導の年間計画から具体的な企画及び運営を担う。</p> <p>②外部連携 大阪大学全学教育推進機構 大阪大学大学院工学研究科 など</p>											
	3 上 記 以 外	<p>(1) 課題研究以外の取組内容・実施方法・検証評価 「高大連携による発展的な学びから生み出すさらなる3つのプロジェクト」 小中学生に学びや研究の成果を披露したり、授業力向上の共同研究を進める『小中高の架け橋プロジェクト』、テコパークとの協働による『生み出せ三田新ブランドプロジェクト』、三田市政府組織からの学びや新たな都市空間を提言する『Society5.0プロジェクト』の推進を図る。</p> <p>(2) その他 成果は毎年度、課題研究論文集及び、研究開発報告書としてまとめる。</p>										
⑧経費	報償費		旅費		需用費		役務費		使用料・賃借料		合計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
	115 千円	135 千円	50 千円	90 千円	560 千円	145 千円	20 千円	20 千円	345 千円	520 千円	1,090 千円	910 千円